

バックカスティングの視点を取り入れる

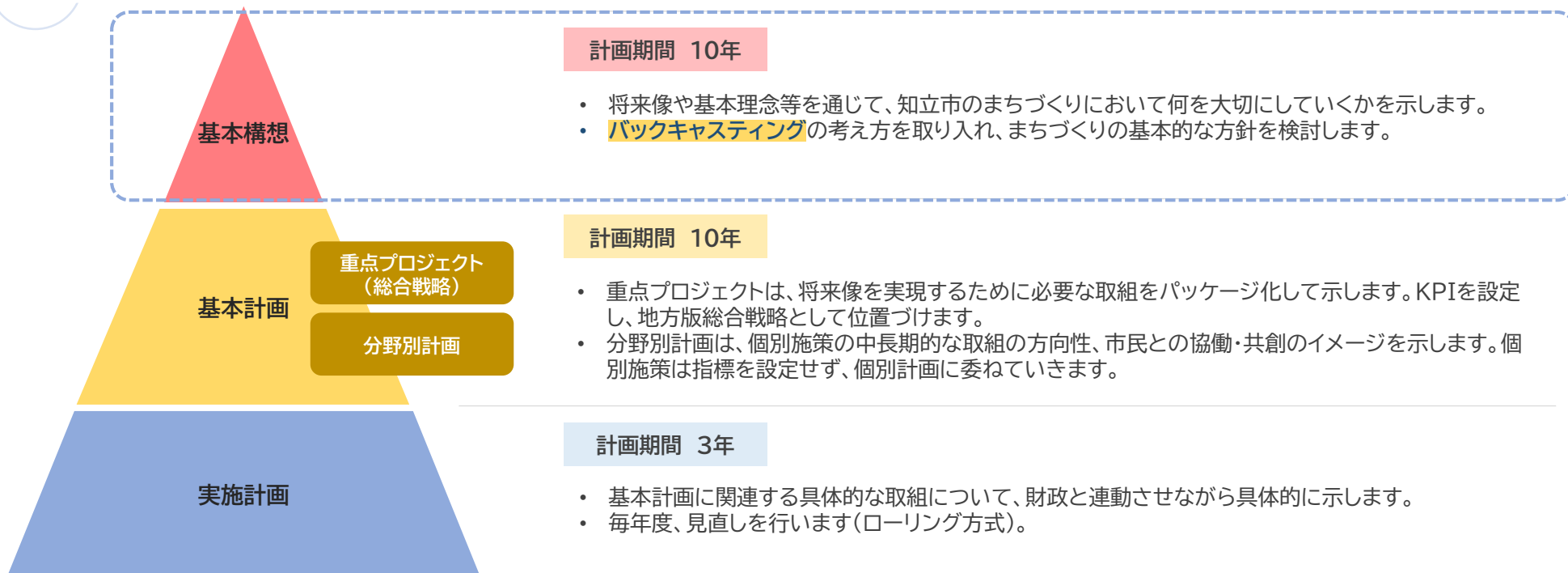
- 第7次知立市総合計画は、バックカスティングの視点(「未来のあるべき姿や目標」から「現在行うべき取組」を設定すること)を取り入れて検討をしていきます。
- 検討にあたり、「市民が希望する暮らし・仕事を叶えるという視点」が重要です。



「10年後の市民(市民生活)は、こうありたい(こうあってほしい)」

- 将来像や基本理念等のまちづくりの基本的な方針を検討するにあたり、次ページから紹介するアンケート調査結果及び転入・転出状況を踏まえながら、意見交換をさせていただきます。

計画構成案(参考)

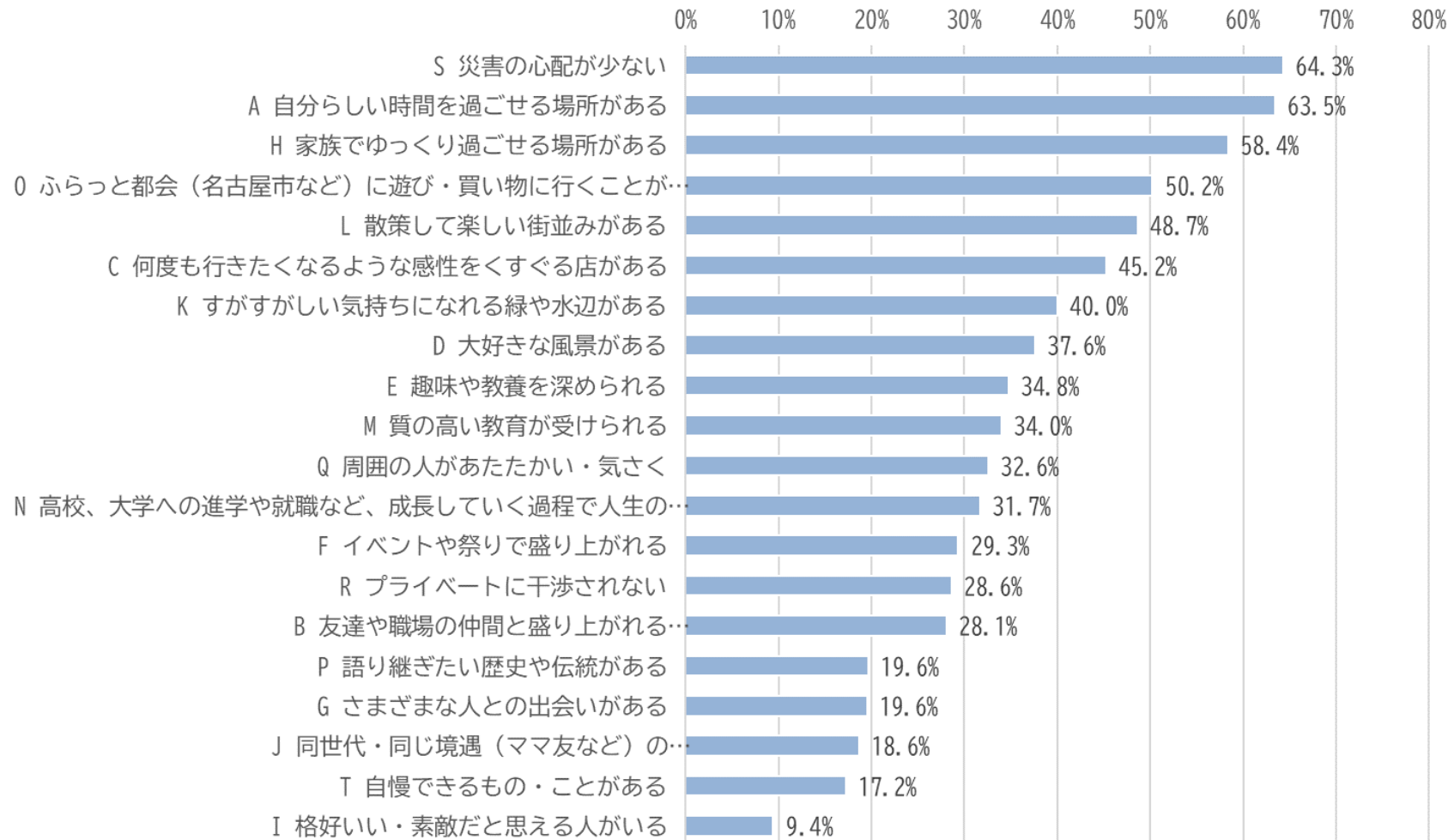


2. まちづくりの方向性の検討について

アンケート調査結果から得られた「市民が希望する暮らしのイメージ」

(1) 暮らしていくうえで重要と思うこと

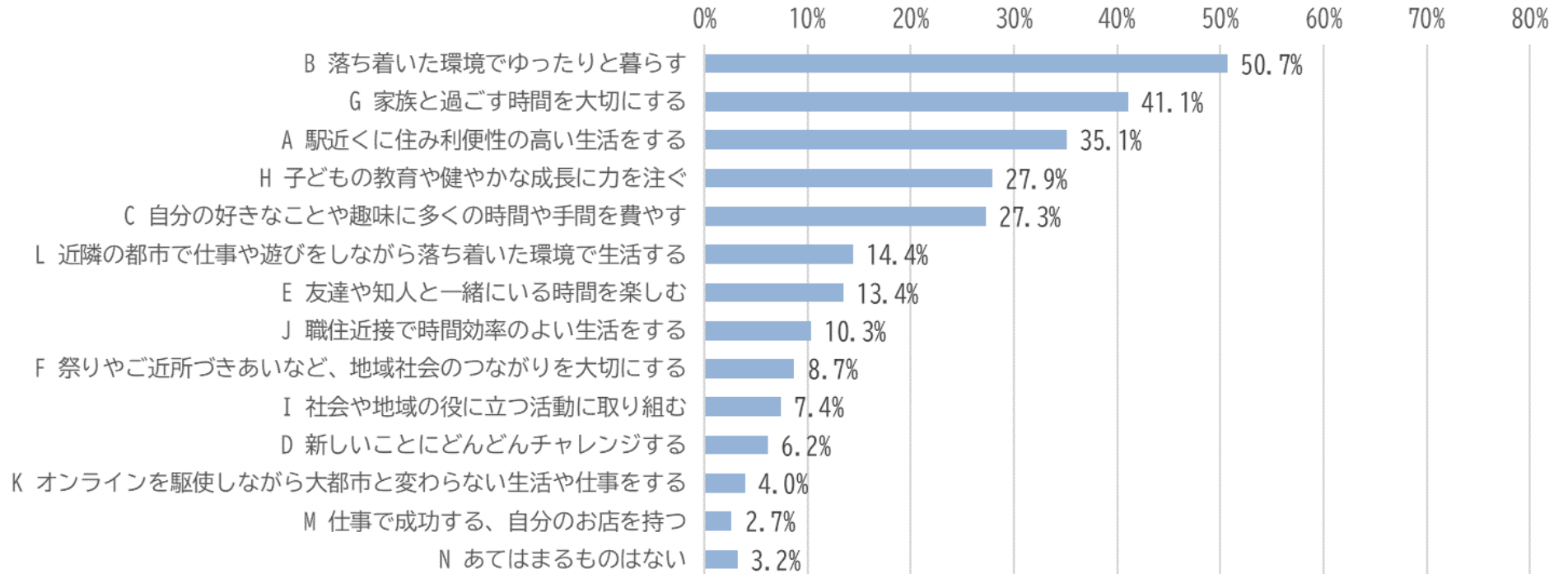
n=1,421(一般)



2. まちづくりの方向性の検討について

(2) 希望する暮らし方

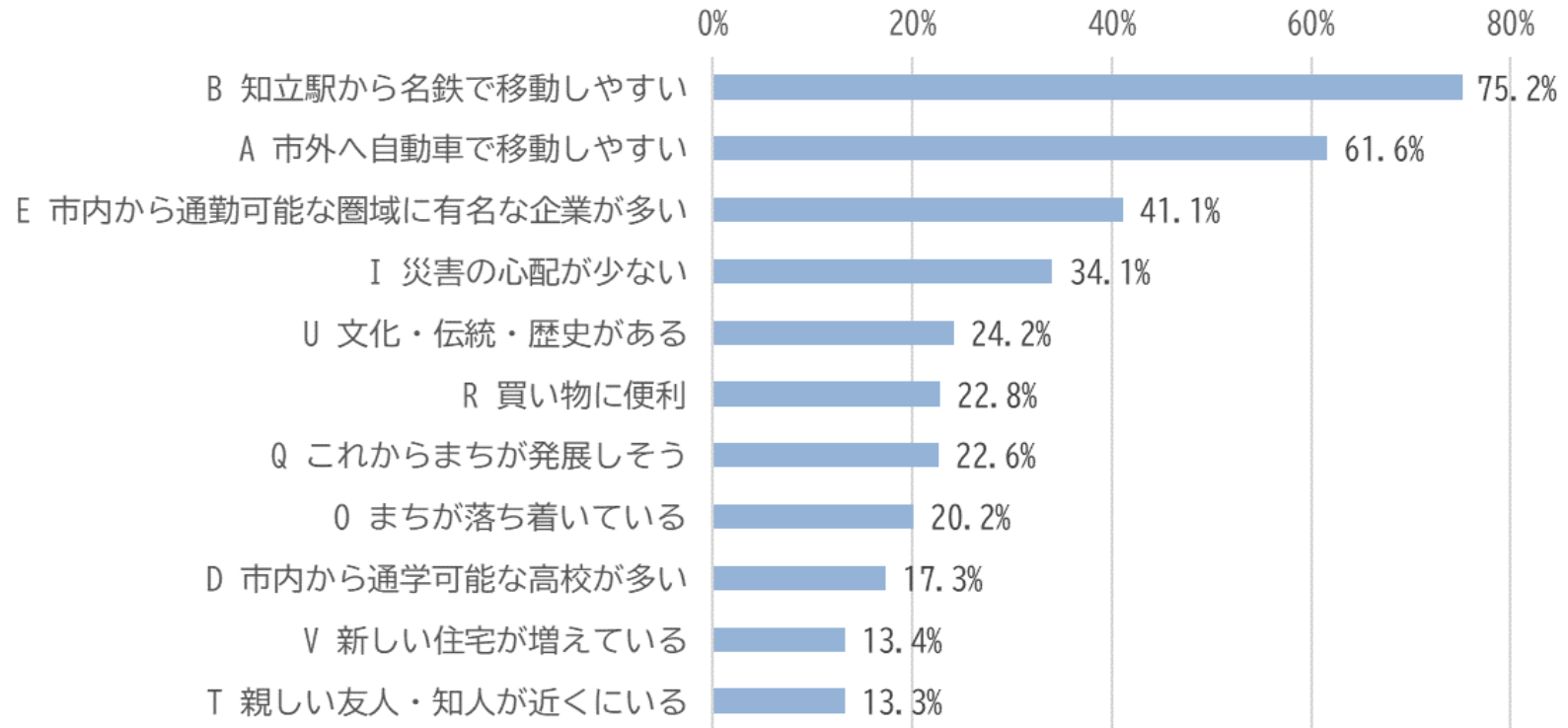
n=1,421(一般)



2. まちづくりの方向性の検討について

(3) 知立市の魅力

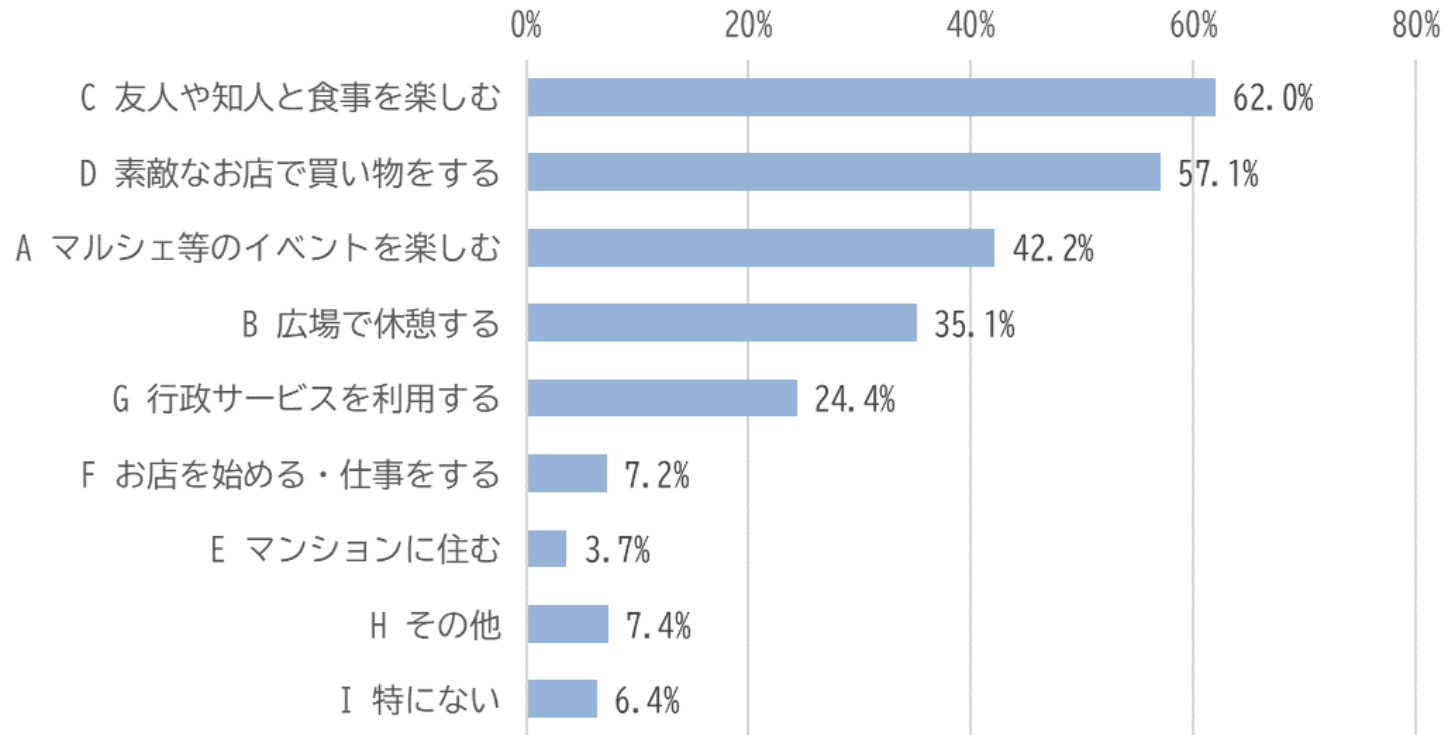
n=1,421(一般)



2. まちづくりの方向性の検討について

(4) 開発中の知立駅周辺でできるようになるとよいこと

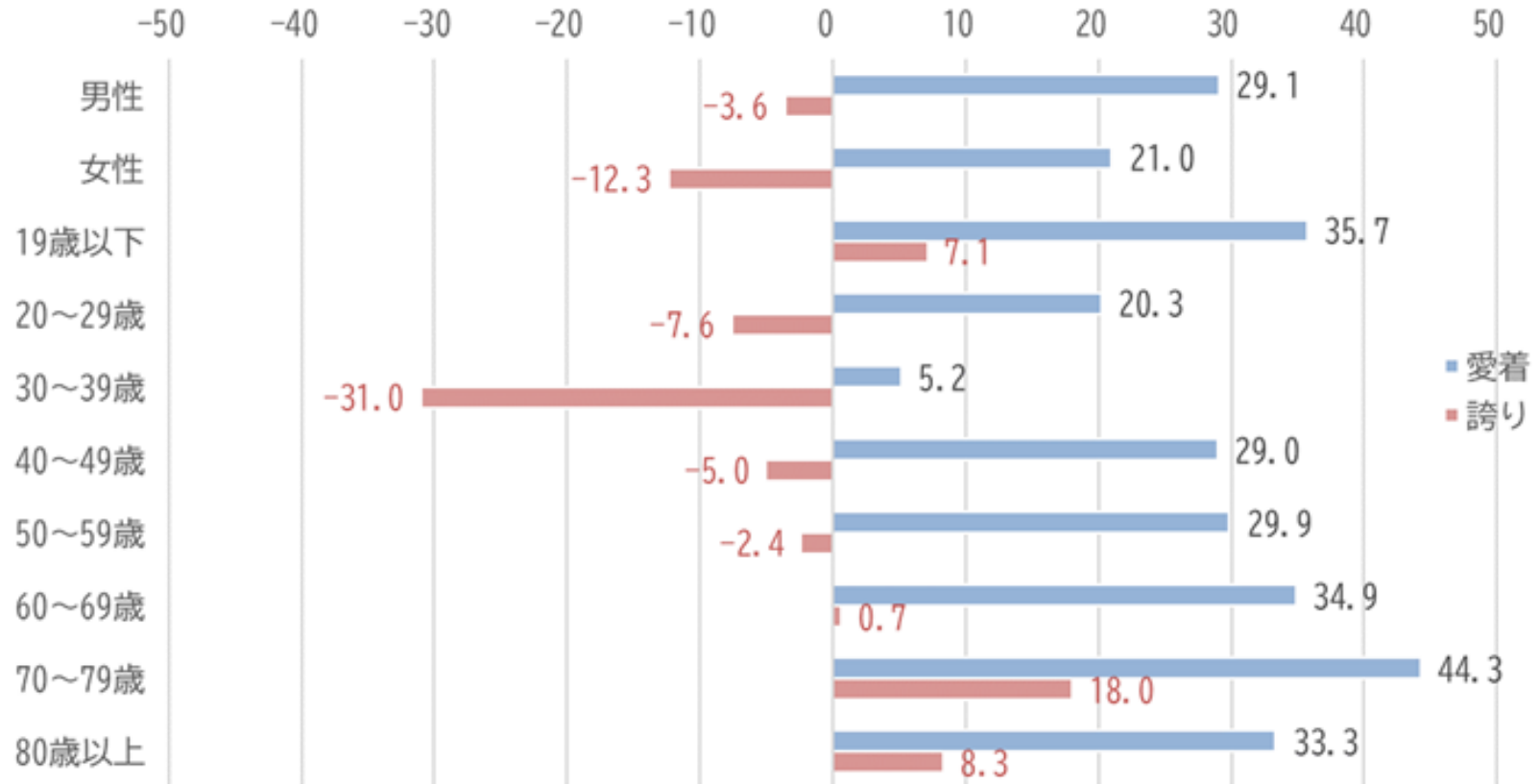
n=1,421(一般)



2. まちづくりの方向性の検討について

(5) 知立市に愛着・誇りを感じるか(男女別・年齢階級別)

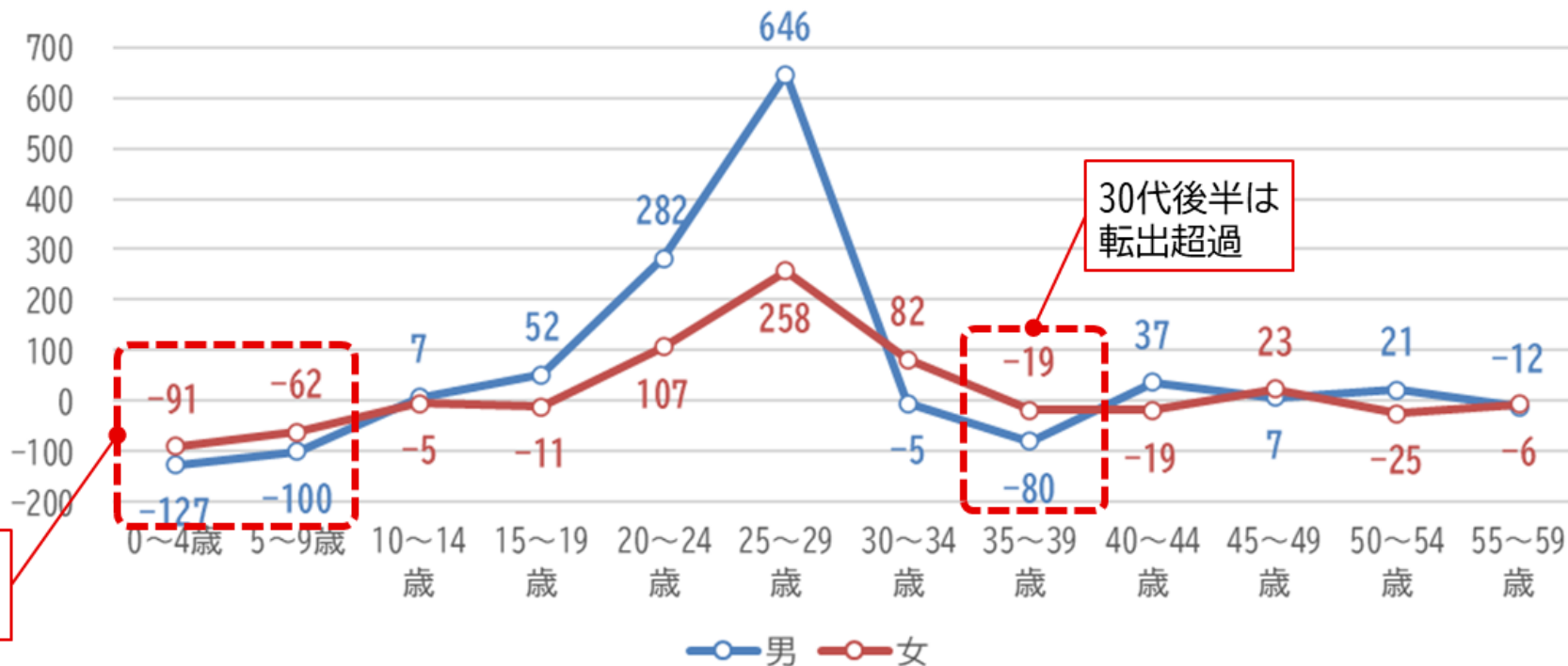
n=1,056(一般・市内在住)



2. まちづくりの方向性の検討について

転入・転出状況

5年前の年齢による年齢5歳階級別転入・転出状況（2015年→2020年）



一桁の年代は
転出超過

30代後半は
転出超過

資料:令和2年国勢調査

2. まちづくりの方向性の検討について

意見交換

アンケート調査結果及び転入・転出状況から、以下のような特徴があることが確認されました。

- 市民のうち、30代において知立市に対する愛着・誇りが低い傾向が見られ、持ち家取得時における市外転出の一因となっていることが考えられる。

⇒こうした世代の希望を叶えていくことが、今後のまちづくりにおいて、特に重要であると
考えられます。

意見交換のテーマ

『10年後の市民(市民生活)は、こうありたい(あってほしい)』